

佳作

努力は必ず報われる

久喜市立久喜北小学校 4年

綿引 悠真

今年は、パリオリンピックがフランスで開催され、とても盛り上がっている。ぼくも家族で毎日テレビ観戦をしている。オリンピックの後はパラリンピックが始まる。みなさんは、もう一つのオリンピックを知っているだろうか？今年二月に開催された「スペシャルオリンピックス」という知的障害のある人たちが参加するスポーツの大会で、アメリカで五十年以上前に始まったそうだ。

ぼくの姉は、今年の二月に長野県で開催された全国大会に、埼玉県代表として、出場した。小学三年生から続けているフィギュアスケートの選手として選ばれた。

七歳上の姉は、今年支援学校の高等部二年生になる。生まれてすぐに肝臓の病気が見つかり、肝臓移植をして命が助かったが、その時の後遺症で知的障害が残った。僕と同じように計算や文を書くことはできない。それでも支援学校で頑張って勉強をしていたのに、小学五年生の夏に突然、急性リンパ性白血病になった。ぼくは四歳だったが、両親が病院に行ったきりになり、とても寂しい思いをした記憶がある。姉は、半年以上入院して奇跡的に回復したが、治療の影響でまたできないことが増えた。母はいつも、「生きてるだけで丸もうけ」と言っていて、姉が楽しく学校に行ったり、好きなフィギュアスケートを続けられたりすることが本当にラッキーなことなのだと話している。

姉は、長い入院生活でやせてしまい筋力が落ち、スケートリンクに立つことがやっとの状態になった。でも、毎週一生懸命に練習に参加し、少しずつまたスケートが上達していった。その頑張りにも、ぼくも元気をもらえた。

四年に一度のスペシャルオリンピックスの代表に選ばれて、緊張していた姉だったが、本番は今までの練習の成果を一つ一つ丁寧に発表することができた。大きなリンクに一人で立って、立派に発表している姿に、家族はみんな泣いていた。

結果は、五位だった。普段はあまり感情を表に出さない姉が、珍しく悔し泣きをした。姉なりに一生懸命頑張った証拠なのだろう。

五位だったけれど、ぼくにはリンクの上で立派に演技をする姉が、とても大きく、輝いて見えた。

この大会では、色々な選手がいて、みんなそれぞれが一生懸命に自分の演技をしていた。ぼくも、得意なことと苦手なことがある。できないことは、すぐにあきらめてしまう。姉は、人よりたくさん時間はかかるけれど、何度もあきらめずに練習しているいろいろなことが少しずつできるようになってきている。「努力は必ず報われる。」ということ、姉やスペシャルオリンピックスの選手からぼくは教えてもらった。四年後のスペシャルオリンピックスの全国大会に、また姉が笑顔で出られたらいいなとずっと応援している。

ぼくも、三年生から少年野球チームに入って野球の練習を毎週頑張っている。野球の難しいルールを覚えながら、守備の練習やバッティングの練習をしてるが、なかなかうまくいかない。エラーをして、かんとくに怒られると、いやになることもある。でも、半年間家でも毎日自主練習をしたら、フライがうまくとれるようになってきた。

「努力は必ず報われる」のだと心の中でとなえながら、今日もぼくは、野球の練習に汗を流す。姉の頑張りにも負けずに、ぼくも野球を全力で頑張っていきたい。